



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

株式会社さつまホーム企画室
地球やりなおし計画
事務局

若いリーダーに期待してます

みなさんこんにちは、さつまホームの瀧川です。朝晩冷えますね。風邪に気をつけて下さいね。この度大阪府に史上最年少知事が誕生しました。「歳入の範囲で予算を組む」という、考えれば当たり前の事によく本気で取り組んでくれそうな感じがします。前回の『地球暮らし』では、「大阪は日本一ゴミの多い町」というお話もさせていただきました。モノは、作るにも捨てるにもお金がかかるのですから、新知事には経費削減のためにもゴミ対策「ガツン」とやっていただけたら・・・と思います。



ごみ問題と3R～私たちができるもうひとつの温暖化対策 第2回～

おさらい～3Rとは？

ゴミ削減のための3Rとして前号では、

Recycle(リサイクル=再資源化)

Reuse(リユース=再使用)

Reduce(リデュース=削減)

と記しました。でも、これは(おそらく)誰もが取り組みやすい順番に並べたものであって、環境対策上、より大切な(つまりより効果的な)順番は、

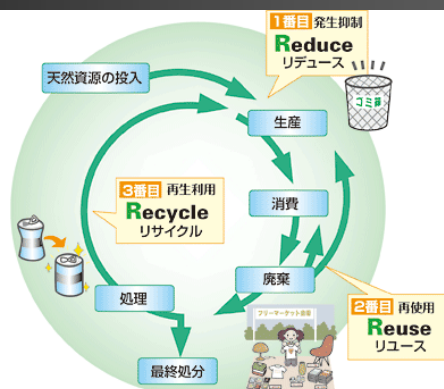
Reduce(リデュース=削減)

Reuse(リユース=再使用)

Recycle(リサイクル=再資源化)

となります。(この順番の方が一般的です) 3つのRの関係は右上の図のようになります。

リユースとは、ものをゴミにせずに消費者の手元で再利用しようというもの。そしてリデュースとは、そもそもゴミになるようなものを(包装等も含めて)作らない、買わない様にしようというものです。今月はこの2つを解説して行きます。



3Rの優先順位(出展:環境goo ゴミと3R)

リユースは「ものを大切にすること」

今や私たちの身の回りは、安価で便利なプラスチック製品が溢れかえっています。モノを粗末にすぐに捨ててしまう様な風潮ができてしまった最大の原因といえるでしょう。これらの製品は寿命が短く、しかもゴミにすると自然に還りにくい厄介者となります。少し高くても、いいものを大切に使うことが「リユース」のスタート地点。手入れをしながら使う、壊れたら修理して使う、不要になったら他の人に譲る・・・いろいろ方法はあります。中でも、「人に譲る」作

業は、インターネットの普及によって格段にやりやすくなりました。ネットオークションを覗いてみて下さい。24時間営業・全国版フリーマーケットの様です。眺めていると、お金のためだけでなく、「まだ使えるんだからゴミにしたいくない」という思いが伝わって来るような出品も沢山見つけることができます。

リデュースは「節制する心」

みなさんには、次のような経験はありませんか？レジ袋や割り箸、スプーンなど、無料のものはよく考えずにもらってしまう。バーゲンで値段が安くなっていると、買うつもりでなかったものまで買ってしまふ。無駄だとわかっていても、高級なものを買ったときの華やかな包装を断れない。ホテルや公共の場で、無料で提供されるものはいっぱい使い過ぎてしまう。食べ放題で、食べきれないほどの量を皿に取ってしまう・・・。このような小さな行動の積み重ねが、大量のゴミを発生させる大きな原因となっているのです。 unnecessaryなものは持たない、買わない、もらわない、使わない、作らない。というのが、エコライフの第一の心得。たとえ無料でも使わなければそれは資源の無駄であり、ゴミを増やすこととなります。



トピック

温暖化対策で環境モデル都市選定へ

政府は地球温暖化に先進的な取り組みをする「環境モデル都市」を、主要国首脳会議(洞爺湖サミット)前の6月に10都市を選定する。エネルギー使用が少なく、済む交通機関の活用や、耐用年数の長い「200年住宅」の普及などを進める都市を選定。

首相ダボス会議講演「国別総量目標を」

福田首相が世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)で特別講演。ポスト京都議定書の枠組みづくりで、新たな「国別総量目標」の策定を主導し、日本自身も総量目標を定めることを公約。

情報リンク

「えひめの循環型社会づくり」のサイト

http://www.pref.ehime.jp/030kenminkankyou/140junksanskai/00004731040517/gomi/

ごみと3Rについて解りやすい解説がありました(本文執筆に際し、こちらの情報を参考にさせていただきました)

お知らせ バックナンバーをプレゼント

多数のお申込みありがとうございます。引き続き『地球暮らし』全バックナンバープレゼント実施中です。右記のEメールかFAXまでお申込み下さい。

編集後記 こんな事書くと叱られそうですが

リデュースもリユースも結局、「皆が忘れかけている日本人のココロ」ということではないでしょうか？そう考えると特別な事は何も無いのです。新しいモノが売れなくなったら産業界は困るのですが、環境に害をなす会社や商品は淘汰される・・・もうそういう時代です。皆頑張り！

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com
FAX : 06 - 6855 - 7700
郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-12-11
株式会社さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます

